
なんて恋したんだろ

夢小路 一瞬

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

なんて恋したんだろ

【Nコード】

N0068B

【作者名】

夢小路 一瞬

【あらすじ】

恋の終わり。二人の思いで。忘れない、いつまでも、衣いつまでも。。。も。。。

（前書き）

ドリームズカムトゥルーの同名の曲の歌詞を元に書いてみました。
歌詞の言葉から浮かんでくる情景はこんな感じなのですが、いかが
でしょうか。

なんて恋したんだろ（ドリームズ・カム・トゥルー）

「おうどん、できたよ」

あたしは、精一杯明るい声でそう言った。

「うん、サンキュ」

あなたは、いつもと同じように優しく、笑ってそう言ってくれた。

「いただきます」

やっぱりいつもと同じように、あなたはお箸を両手で挟んで持って、軽く頭を下げてそう言った。あたしも、いつもと同じように、こう言った。

「どうぞ」

ズルズル……ズズツ……ふーっ、ふーっ……

あなたは、何も言わずにおうどんをすすり続けた。

あたしも一緒に食べだした。途中で、なんかちよっと違う音が混じりだしたのに気がついた。

ちらっ、とあなたの顔を見たら、あなたの瞳から涙が……

あなたは何も言わなかったけれども、涙を流し続けていた。

ずっとずっと、何も言わないで、ただ、おうどんを食べていた。

あたしは、あなたのその思いやりが嬉しくって、何も言えなかった。

あたしもおうどんを食べ続けたが、やっぱり涙が溢れてきた。

ずるっ、フー、フー……

あたしも、おうどんをすすりながら涙を流していた。

ちらつ、とあなたがあたしの顔を見たのに気がついた。

でも、何を言えぱいいのか分からなかったし、気持ちだけがいつぱいっばいになって、何も言うことができなくて、ただ涙を流し続けるしかなかった。

しばらく経って、あなたはどんぶりを持ち上げ、最後の一滴まで飲み干した。

そして、いつものように、頭を下げて

「ごちそうさまでした」

と涙声で言った。

あたしもやつぱり、涙をこらえるように

「うん」

とひとこと言うのが精一杯だった。

……あの日のことは今でも……昨日のこのように、いや、ついさっきあったことのように思い出せる。

おうどんを食べておなかがいっぱいになったときのあなたの顔。

あなたの目に光る涙の粒。

おうどんを食べるまでに二人で話しあったいろんなこと……

あの日からしばらくあたしは、抜け殻のように毎日ぼーっとして暮らしていた。

いかにあたしの心の中のあなたの比率が大きかったかについて、やっと気がついた。

あたしのそばからあなたがなくなるってことの重大さに、気がつけなかったんだね、あのときは。

精一杯、あなたのことを好きになって、そしてあなただけが、あたしの全てだったんだ。毎日毎日。

そんなに好きだったのに、どうして別れちゃったんだろう……

どうして、たったひとことが言えなかったんだろう……

あたしがこの世で一番好きで、そして一番仲良しの友だちだったあなたを……

……でも、きっと、あなたのことはこれからもずっと忘れない。

きつときつと……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0068b/>

なんて恋したんだろ

2010年10月19日17時21分発行